



え まついのりこ

何故…という思いを胸に



テレビ等でご活躍の黒柳徹子さんによる自伝的図書『窓ぎわのトットちゃん』は、1981年の発刊以来日本で800万部、全世界では2500万部のベストセラーです。

この度、トットちゃんこと黒柳さんの戦争体験を、松本春野さんの絵で描いた絵本『トットちゃんの15つぶのだいず』（黒柳徹子 原案、柏葉幸子 文）が発売になりました。

少女のトットちゃんが、防空壕の中で今日一日分の食糧である、たった数粒のだいずを数える場面があります。「どうせ家へ帰っても、空襲で家が焼けているかもしれない」とトットちゃんは考えます。悲しくてだいずがのどを通らないなら、今、食べてしまった方がいいに決まっている…。この場面などは、トットちゃんより4才年下の

私自身の記憶と重なる部分があります。ひもじくて殺伐とした生活の中でも、「生きる!!」という強い思いを捨てずに過ごしたことを思い出しながら、この絵本をお客様にすすめています。

今年も「終戦記念日」が近づいてきました。「なぜ地球上から戦争が起こらないようにできないのか?」「なぜ文明が発達しているのに戦争を止めることが出来ないのか?」毎年この時期になると同じ疑問を発しています。
(橋村 孝子)

お知らせ

2023 8

日	月	火	水	木	金	土
		1 おはなし会	2	3 定休日	4	5
6 定休日	7 紙芝居ピッコの会ミニ講座	8 大人のための絵本の時間	9	10 定休日	11 営業します	12 おはなし会
13 定休日	14	15	16	17 定休日	18	19
20 定休日	21	22	23	24 定休日	25	26 おはなし会
27 定休日	28	29	30	31 定休日		
15日(火)のおはなし会はお盆休みです						



8/10(木) 第4回紙芝居基礎講座

毎月第2木曜 午後2:30～ 資料代500円
定休日ですがお店で行います
お問い合わせはお店まで

おはなし会

1日(火) 11:00～
12日(土) 14:00～
26日(土) 14:00～



大人のための絵本の時間

8日(火) 10:00～ 大人も絵本を楽しみたい!

紙芝居ピッコの会ミニ講座

7日(月) 14:00～

※ホームページでもぶっくだよりが読めます。「みやがわ書店」で検索するか下のQRコードで

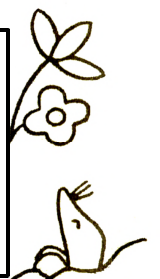


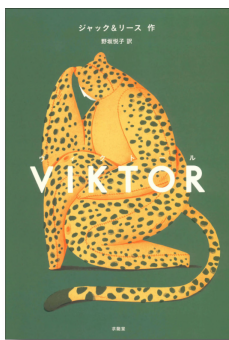
えほんと童話の店

みやがわ書店

〒519-0505 三重県伊勢市小俣町本町163(JR宮川駅前)

- 電話・FAX 0596-22-4317 ●Eメール ehonbaba@gmail.com
- 定休日 毎週日曜日・木曜日 ●営業時間 AM10:00～PM6:00
- ホームページ <https://www.miyagawaehon.com>





「VIKTOR ヴィクトール」
ジャック&リース 作
野坂悦子 訳
求龍堂 3,300円

デザインや色遣いが独特で印象的。狩人ヴィクトールは自分の行いを反省し償おうとするのですが…世界7カ国での話題作。



「ぼくのいぬは どうしてこんなに かわいいのか」
作 しゅん
絵 えがしらみちこ
KADOKAWA 1,430円

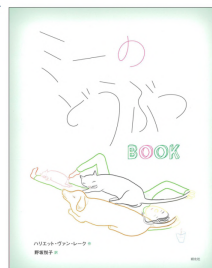
小学2年生の作者が、愛犬を観察し、調べて「夏休みの自由研究」にしたものを絵本化。動物の観察記録だけでなく、愛情たっぷりの研究です。

新刊紹介



「ようこそ こども のけんりのほん」
えがしらみちこ え
子どもの権利・きもちプロジェクト 文
白泉社 1,430円

「にんげんらしく いきるけんり」ってどんなこと？ 大人と子どもで一緒に考えたい、話したい。



「ミーの どうぶつ BOOK」
ハリエット・ヴァン・レーク 作
野坂悦子 訳
朔北社 1,650円

ミーという女の子と親友である動物たちとの密着感が温かくユーモラス。読んでいて気持ちが楽～になります。



「ポストがぼつん」
北川チハル・文
小池アミイゴ・絵
アリス館 1,650円

ポストは海の底であろうと砂漠であろうと、その場にじっとしているだけ。ところが一たび手紙が入ると、がぜん使命に燃えて届けに行くのです。



「もりの かくれんぼ」
作 フィリップ・ジャルバール
訳 ふしみみさを
小学館 1,980円

森の茂みに動物たちが隠れています。細かく美しいモノクロの絵を眺めながら、動物たちを探して遊ぼう！

新刊紙芝居



「パトカーのウーくん」
脚本 荻田澄子
絵 林なつこ
童心社 1,540円 8場面

町のみんなを守るため、誰かが困っていたらすぐかけつけます！ ぶるるん ぶるるん パトパト ウー！

大人コース

この絵本を描くにあたって

松本春野さんの思いを届けてくださいました



「トットちゃんの15つぶのだいず」
黒柳 徹子 企画・原案
柏葉 幸子 文
松本 春野 絵
講談社 1,760円

この「トットちゃんの15つぶのだいず」は、戦争の絵本でありながら、読後に幸福感や明るいイメージが残る作品にしたいと願って描きました。戦争体験がない私でも幸せな絵なら描けます。幸せな記憶を、例えば戦争が始まる前のシーンはすごく大事だと思っていて、平和のために戦争の絵本を描くのだから、平和なイメージが残る絵本でないとダメだと思ったのです。読んでいて「もう二度と開きたくない」って思うような絵本を、今の戦争を知らない子どもたちは、手に取りづらいんじゃないか。いろんな覚悟を持たないとそういう作品ってなかなか開けない。

でも図書館や、本屋さんでふと手にしたこの絵本を読み進んでもらえるようにする。そして、もう一度開いてもらうためには、『これは平和に向かうための絵本だよ』っていうメッセージを強く出さないといけないと思ったのです。

トットちゃんのかわらぬ子どもらしさ…。怖い時は体が縮こまるよね。でも、空襲警報が解除された時って、みんなきょううんと伸びをするよね。晴れ渡った空は気持ちいいって思うよね。そういうものが戦争時代を描いた絵本にあってもいいんじゃないか。そう思って自分や子どもたちが知っているものをたくさんたくさん描き込みました。それをもしかしたら『希望』っていうふうに関心取れるかもしれない。そう強く願って…。

松本 春野